

# 検図の考え方と効果的手法

中村 和夫\*

\*なかむら かずお…中小企業診断士

〒247-0072 神奈川県鎌倉市岡本1500-13-1210  
TEL・FAX(0467)45-4505

## 広義の検図，狭義の検図

生産部門には検査だけを業務とする人がいる。しかし設計部門に検図だけの担当者はいない企業がほとんどである。そのため、構想や作図など設計業務への影響を小さくするためには、体系的に検図を進める必要がある。本稿では専任の担当者を置かずにごう検図を行うかを述べる。

検図は製品の検査や文書のチェックと異なる3つの特徴を持っている。

- (1) 図面として完成した段階でのみ行うのではなく、未完成段階の構想図または組立図原案の内容を検討する、デザイン・レビューや設計評価法、などは一種の検図活動である。
- (2) 試作もその図面の不具合なところを丁寧に探す、いわば綿密な検図である。
- (3) 生産活動に入ったあと、VEなど図面変更提案が出てくるとも図面の不備を補っており、検図は出図後も行われていると言える。

以上の3方法は広義の検図であり、その作業は設計部門のみで行うのではなく、関連部門の協力によって推進される。通常“検図”と呼ばれるものは、上記のように他部門の力を借りるのでなく、設計内部で行うものを指し、図面が完成して出図前の状態で見直すことをいっている。いわば狭義の検図である。本稿でもその検図方法について述べる。

## 綿密な検図を行っている設計部門は2割以下

設計部門内で検図を綿密に行っている企業はそう多くない。表は数年前著者が行った設計管理のセミナーで、「貴社の検図の実態はどのような状況ですか」と、アンケートをとった結果である。綿密に行っているところは2割以下である。

表 検図実態のアンケート結果

回 答	比 率
実質的には行っていない	15.4%
簡単に行っている	61.5%
綿密に行っている	19.2%
無回答	3.9%